

第6回九州保育三団体研究大会

大会主題

すべての人が子どもと子育てに関わりをもつ社会の実現をめざして

大会スローガン

泣こかい 飛ぼかい 泣こよっかひっ飛べ

(夢に届くまで跳べるだろうか、跳べないかもしれない、でも迷って泣くぐらいなら、思い切って跳んでしまおう)

大会趣旨

熊本市大会から引き継がれた九州保育三団体研究大会は、明治維新から150年の時を超えて、新たな幕開けとして九州保育三団体関係者がこの鹿児島のに集い、大会の意義である「保育者同士が研究発表を共有し、保育・子育てに関する実践について享受しあう」ことにより、「子どもの最善の利益を守る」保育実践の更なる向上のために開催します。

平成30年度から新たな「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」が施行され、保育施設等に関わる子どもの育ちの方針が統一・明文化されたことは、とても重要なことであり、これからの保育・幼児教育の大きな柱となっていくことは間違いないことであります。だからこそ、私たち保育者の保育実践が重要視されることも当然のことであり、それに応えていく専門職として、意識向上とスキルアップに努めていかなければなりません。

鹿児島の偉人、西郷南洲翁（西郷隆盛）の遺訓第二十ヶ条に「何程制度方法を論ずるとも、其の人に非ざれば、行はれ難し。人有りて、後方法の、行はれるものなれば、人は第一の宝にして、己れ其の人に成るの心懸け肝要なり。」とあります。

つまり「どんなに制度や方法を論議しても、それを行なう人が立派な人でなければ、うまく行われまいだろう。立派な人あって初めて色々な方法は行われるものだから、人こそ第一の宝であって、自分がそういう「人物」になるよう心掛けることが何より大事である。」ということです。

まさに、私たち保育者自身が、その「人物」になれるように研鑽すること、また、子どもの育ちの支援においても、次代を担う「人物」を想像しつつ、多様な環境の中にある子どもをはぐくみ育て、保育実践に取り組んでいかなければならないのではないのでしょうか。

本大会は、参加する保育者一人ひとりのスキルが十分発揮され、研究に対する活発な意見や協議が行われることにより、更なる保育への探求に情熱が注がれていくことを目的として開催いたします。

子どもの笑顔を守り育てていくことこそが、私たち保育者、地域社会の使命であり、同時に、これからの人口減少地域社会、幼児教育・保育無償化、第二期子ども子育て支援計画策定等を、より良い制度へと導くのも保育者一人ひとりの発信力と絆が必要であります。

「九州はひとつ」といわれるように、九州保育三団体関係者の心が一つとなり「すべての人が子どもと子育てに関わりをもつ社会の実現」の為に、その推進と実践を先導してまいりましょう。